



【横須賀地方総監挨拶】

海将 伊藤 弘



横須賀水交會の皆さん、こんにちは。

この度、第50代横須賀地方総監として着任した伊藤海将です。東海鎮守府に始まり、5つの総監部の中で最も長い歴史を有するこの横須賀の地において、護衛艦「たちかぜ」船務長以来、ちょうど四半世紀振りに勤務できることを大変嬉しく感じているとともにその重責に身の引き締まる思いです。皆様方におかれ

ましては、常日頃から海上自衛隊の活動に関心をお持ちいただくとともに、ご理解とご協力を賜りこの場をお借りして厚く御礼御申し上げます。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は戦後最も厳しく、そしてその複雑さを増しています。昨年末安保関連3文書が策定され、今年度以降の大幅な防衛費の増額がなされていることは周知のとおりです。

我々海上自衛隊はこのように激変する戦略環境下、これまでの70年間とはまったく別次元の世界に投げ込まれていると言っていると思います。そのような状況の下、私は勤務方針として「伝統の継承」、そして「変化への挑戦」の2点を隸下部隊に示しています。まず、私の言うところの「伝統の継承」は、良き伝統を継承し、より良い組織、つまり、

発行 令和5年11月13日(月)
編集 横須賀水交會事務局

より素晴らしい海上自衛隊を後進に繋ぐということです。「伝統

の継承」というと、伝統にしがみつく、いわゆる「伝統墨守」と捉える人がいますが、現状に甘んじていてはより良い組織を構築することなど叶いません。変化を先取りし、我を適合させる、つまり「変化への挑戦」と「伝統の継承」を表裏一体の形で成し続けることが海上自衛隊をさらに大きく飛躍させる鍵となります。

この「伝統の継承」と「変化への挑戦」というパッケージを推進していく上で我々が念頭に置いておかねばならないことがあります。それは我が国日本が、「少子高齢化」などという生易しいものではなく、「人口減少社会」に突入しているという事実です。伝統の継承を通じて、より良い組織を構築するにせよ、変化に挑戦するにせよ、そのすべての基盤は「人」です。我が国の人口は2009年にピークを打

ち、その後、一貫して減少し続けています。昨年1年間の人口自然減はおおよそ80万人となりました。これはほぼ中規模の県1県分に値します。

人口減少社会にあっては、共に勤務する上司、先輩、同僚、部下、後輩、つまりすべての「他人(ひと)」に関心を持つことによって一人ひとりを大事にし、強くし、

(次頁へ)

横須賀水交會主要行事予定

令和6年3月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交會ホームページHP

(<http://y-suikoukai.daa.jp/>)で御確認下さい。

1 幹事会懇親会

(1) 期日 12月15日(金)

(2) 場所 メルキュールホテル 横須賀

2 横須賀市賀詞交歓会

期日 1月4日(木)

3 靖国神社月例参拝

(1) 期日 2月15日(木)

(2) 場所 靖国神社等

総じて海自が有する人的基盤を強化して行かねばならないのです。このコンセプトを人口減少社会におけるキーワードを用いて言い換えれば、「人への投資」を通じて、隊員個々の生産性を向上させるということになります。私はそれに全力をもって取り組みます。

海上自衛隊は昨年創設70周年を迎えました。今を生きる我々は、30年後、つまり21世紀中葉に勤務する後輩諸君にとつての海上自衛隊を、素晴らしい創設100周年を迎えることが叶う組織としなければなりません。私は、歴代総監を始め、各級指揮官並びに歴代隊員諸官がこれまで築いてこられた海上自衛隊横須賀地方隊の輝かしい伝統を継承し、より素晴らしい組織として後進に繋ぐべく変化に挑戦し続けていく所存です。

チャールズ・ダーウィンはこのように言ったと言われています。「生き残るものは、最も強い種でも最も賢い種でもない。最も変化に適合し得る種である」

と。

終わりに、横須賀水交会の益々のご発展を祈念申し上げ、着任に当りましてのご挨拶に代えさせていただきます。引き続きのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

【特別寄稿】

ペルーの旅

遠洋練習航海部隊の

出迎え・見送り

大橋 文子

(横須賀水交会会員)

海上自衛隊練習艦隊が南米を訪れるとの事で、出迎えと見送りのために私たち(大橋文子、鳥居真紀)はペルーの首都リマを訪れました。

日本からアメリカで飛行機を乗換、23時間、ちよつと遠かったですね。

7月11日(火)、到着が遅い時間だったこともあり、その日はすぐにホテルにチェックインし

て翌日の出迎えに備えて休みました。



12日(水)翌朝、車にて出迎えに港へ。港への出入りはチェックがとても厳しく、頼んでいた車のドライバーさんの話では、港に入るためには講習を受けてテストに合格しなくてははいけないそうです。

埠頭には片山和之ペルー駐箚日本国特命全権大使はじめ日系の方々、日系の中学の生徒さんも多数いらして、日本とペルーの深い繋がりを感しました。港は完全な商業港で、多数の

コンテナ船や貨物船が停泊しているなかペルー海軍の音楽隊が宇宙戦艦ヤマトを演奏してくれました。まずは練習艦「かしま」が続いて、「はたかぜ」が白い制服が眩しい実習幹部の方々を乗せて入港しました。私個人としては、「はたかぜ」が推し艦なので、外国の港でその雄姿を観る事が出来たことがとても嬉しかったです。



入港歓迎行事が行われ、大使の挨拶、遠洋練習航海部隊指揮官(練習艦隊司令官 海将補 今野泰樹)の挨拶などの後、現地中学生から花束が贈呈されました。

た。

行事終了後、実習幹部達は、中学生の記念撮影に引っ張りだこで大人気でした。

次の日、私達は、チャビン・デ・ワントル博物館を訪れました。ここは1996年の日本大使公邸占拠事件の際に、救出作戦の為に作られた大使公邸の模擬施設がペルー陸軍の記念館になっています。入館の準備をしていたところ、なんと大型バスがやってきて、実習幹部の方々が研修に訪れました。その偶然に私達も驚きましたが、日



本とペルーにとって重要な事件の博物館なので、彼らが訪れるのは当然だと思いました。

そしてたまたま、現地の小学校の生徒さん達も見学を訪れ、生徒さん達にまたまた実習幹部が大人気で、記念撮影をせがまれました。あの子供達が日本に良いイメージを持ってくれることでしょう。

13日(木) 夕方には、市内の日秘文化会館にて海上自衛隊音楽隊と和太鼓の演奏会が行われました。勇壮な和太鼓は動画を撮影するお客さんも多かったです。音楽隊の演奏は、沖縄風あり、マツケンサンバあり、そして指揮をする隊長自らマイクを取って歌うアンコールの「上を向いて歩こう」と、和やかな雰囲気に来場者の皆さん楽しまれました。

私達は、出迎え見送りの合間の観光に、有名な噴水公園、大統領官邸の衛兵交代、旧市街地の散策、市内にあるインカ帝国以前の遺跡の見学などをしました。

公共交通機関が発達していないので、車の渋滞が酷く、移動に時間がかかる、常にクラクションが鳴っているなど、日本でのほとんどと暮らしている私にはちょっと辛かったです。食べ物、総じて美味しく、トウモロコシとジャガイモにいろいろな種類のものが提供されるのが驚きでした。

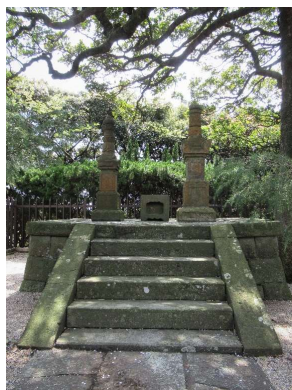
14日(金)には、出港を見送りに再度埠頭を訪れました。

出港は大使館関係者と私達だけの少し寂しくありましたが、実習幹部、乗員、皆さんの帽振れにこちらも精一杯手を振り、水交会の旗を掲げてお見送りいたしました。

【横須賀散歩】

「安針塚」

火 猿



コロナ禍のストレス解消に安針塚まで散歩。その名前のとおり、ここには三浦按針の塚(供養塔)があります。

英国人 William Adams は、関ヶ原合戦の半年前、慶長5/1600年4月に豊後臼杵の黒島に漂着、引見した五大老首座の家康に重用され、250石取の旗本として相模国逸見に采地を得て三浦按針と称しました。家康の死後は不遇を託ち、元和6/1620年に平戸で亡くなりました。



按針夫妻の供養塔は、領地逸見の菩提寺「浄土寺」が建立したようですが、明治35/1902年に結ばれた日英同盟を契機に安針塚周辺の大規模な整備が行われたそうです。毎年四月には、英国大使館の関係者も参加して「按針祭」が行われています。

【参加行事等紹介】

1 「浜空鎮魂の碑」慰霊祭

令和5年4月2日(日)午前、花見で賑わう横浜市金沢区富岡総合公園内の浜空神社跡において、「浜空鎮魂の碑」慰霊祭が浜空会の主催で執り行われました。慰霊祭では、軍艦旗掲揚が行われた後、雷(いかづち)神社秋山宮司により修祓の儀、黙祷、献饌の儀、玉串奉奠、撤饌の儀が斎行されました。

この鎮魂の碑は、昭和11年10月1日に開設された横浜海軍航空隊の鎮護の社として造営され

た浜空神社(平成12年代、雷神社境内に遷移)跡地に建立されたものです。



慰霊祭には、ご遺族をはじめ全国ソロモン会会員の方々、黒川勝、高橋徳美両横浜市議会議員、防衛省から統幕最先任 関准尉、自衛艦隊前任伍長 北口曹長、横須賀地方隊前任伍長 山本曹長、第4航空群前任伍長 美濃曹長、横須賀上曹会会長 酒井曹長ほかが参列、横須賀水交会からは長崎顧問、高橋副会長ほか10名を超える会員が参列、この他

にも浜空神社跡地周辺の清掃奉仕にあたられている方々も参列され、今年の参列者は総勢60名近くになりました。これも浜空会事務局 加藤郁夫氏の熱意とご尽力によるところが大きいと多くの参列者が思いを強くしました。

コロナ禍前には慰霊祭の後に場所を移して行っていた直会(なおりい)も残念ながら慰霊祭後の解散となりできませんでしたが、来年は桜の下で直会ができるのではないのでしょうか。

(一瀬良文事務局長 記)

2 砕氷艦「しらせ」帰国行事

令和5年4月10日(月) 13時30分 快晴、爽やかな風が吹く中、砕氷艦「しらせ」(艦長 波江野 裕一 1等海佐)、乗員180名の帰国行事が行われました。

青空の下、オレンジ色の船体がきれいに映えていました。

「しらせ」は、第64次南極地

域観測協力として、艦上観測支援、野外観測支援、基地設営支援に従事するとともに観測隊員の人員輸送、物資輸送、越冬隊員の収容を完了し、総行動日数151日、南極圏99日、総航程約18,000マイルの任務を終え横須賀港に無事帰港しました。



帰国行事では、横須賀音楽隊の演奏と共に、多くの隊員家族、各部隊指揮官、文部科学省研究開発局海洋地球課極地科学企画官、市の職員等約160名が出迎え、横須賀水交会からは、永田

美喜夫会長、松下泰士幹事長のほか、十数名が「横須賀水交會」ののぼりを立てて出迎え乗組員の労を労いました。

艦長の帰国報告、統合幕僚長からの砕氷艦「しらせ」に対する表彰授与、統合幕僚長訓示(統合幕僚副長代読)と続き、海上幕僚長から「南極地域観測協力という大任を果たし、「しらせ」乗員総員が無事帰国したことは、私の喜びとするところであります。報道、各種取材等の協力を通じて今回初めて南極における「しらせ」の実際の活動状況をリアルタイムで国内に発信し、海上自衛隊の幅広い活動について理解を得たことは大きな成果であります。引き続き各人が本行動で得た貴重な体験や教訓を今後の勤務に生かし、更なる発展に努めてもらいたいと思います。」と慰労の辞がありました。

帰国行事終了後、横須賀水交會会長他5名は、士官室にて艦長との懇談会に参加し、往路では、上陸はなかったが、復路においては上陸ができた事、搭載へ

りの稼働率が高かった事など貴重なお話を聞くことができました。

長期間にわたり、厳しい環境の下での任務遂行に心からの敬意と感謝を表します。

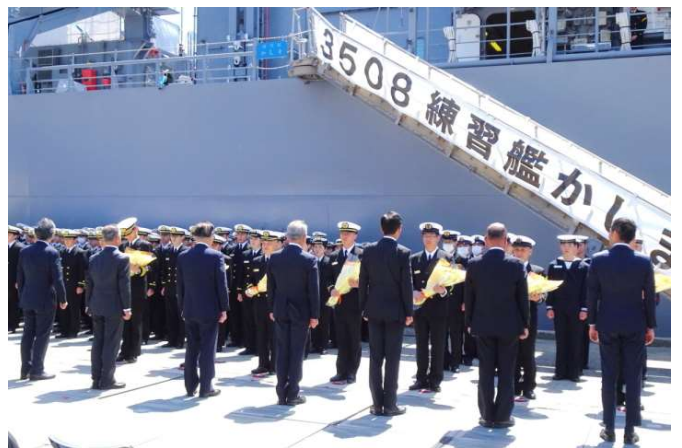
(石井順 幹事 記)

3 遠洋練習航海部隊

入港歓迎行事

令和5年5月10日(水)、ヴェルニー公園では、鮮やかに薔薇が咲き、5月の爽やかな風が吹く中、近海練習航海部隊(指揮官・練習艦隊司令官 今野 泰樹海将補)が、遠洋練習航海を前に横須賀吉倉岸壁に入港しました。

本年度の遠洋練習航海部隊は、練習艦「かしま」(艦長 大谷 三穂 1等海佐)、同「はたかぜ」(艦長 池崎 裕之 2等海佐)の2隻で編成され、去る3月11日江田島を卒業した第73期一般幹部候補生課程修了者約165名を含む約530名が乗艦しているとのことでした。



乾 悦久 横須賀地方総監をはじめ各級指揮官等、上地 克明 横須賀市長をはじめとした来賓、各支援団体が出迎える中、練習艦隊司令官をはじめ乗員及び実習幹部が入場し、寄港歓迎行事は9時40分から開始されました。

出迎え参加者数に制限がある中、永田 美喜夫 横須賀水交會会長が代表で横須賀入港を歓迎するとともに乗員を激励しました。

上地市長から「横須賀市民を代表し、心から歓迎します。滞在

中は、十分に英気を養ってください。」との歓迎挨拶で始まり、来賓紹介、花束贈呈(横須賀水交會からは永田会長が贈呈)と進み、最後に今野司令官から参列者に対する感謝の言葉とともに任務完遂を誓う力強い挨拶があり、短い時間ではありましたが心のこもった歓迎行事が終了しました。

また、同日18時30分から、「よこすか平安閣」において、横須賀市、横須賀市議会、横須賀防衛協会、横須賀商工会議所及び海上自衛隊横須賀地方総監部共催の「海上自衛隊遠洋練習航海部隊壮行会」が新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりに行われました。

壮行会は、「海を行く」の音楽と盛大な拍手に迎えながらの遠洋練習航海部隊の入場、壮行會会長の上地克明横須賀市長による練習艦隊・実習幹部に対する激励から始まり、司令官及び実習幹部代表に対する花束贈呈がありました。

今野泰樹司令官から壮行会の開催のお礼とご指導のお願いと共に「約150日間の遠洋練習航海に必要な基礎的な術科あるいはシーマンシップを近海練習航海を通じて実習幹部には身に着けさせたつもりであります、しかしながら、差が始めており、塩気たつぷりの実習幹部もいれば、今だに塩味が全く足りない実習幹部も存在するのは事実です。この横須賀におきまして2週間かけて最後に塩漬けを作ったうえで出港したいと思えます。」という力強くユーモアたつぷりの挨拶があり、神奈川県横須賀出身実習幹部の紹介、挨拶と続きました。

本壮行会副会長 平松廣司横須賀防衛協会会長兼横須賀商工会議所会頭の発声により高らかに乾杯が行われました。

実習幹部は、多くの海自現役隊員、海自OBや支援者との歓談を通じて自分たちに対する期待の大きさを感じ、それに応えようとする意気込みが感じられました。

壮行会は大変盛り上がる中、井上力 公益財団法人三笠保存会理事長の万歳三唱で終了となりました。

参会者一同は実習幹部の前途を祝して万雷の拍手をもって見送りました。



横須賀市等による壮行会終了後、横須賀水交會は、場所を移して今野泰樹練習艦隊司令官はじめ指揮官等及び先任伍長を招待して恒例の夕食会を開催しました。

本夕食会には、乾悦久横須賀地方総監の出席もいただきました。

永田美喜夫横須賀水交會会長から「先ほどの壮行会では、参会者とのお話ばかりで食事も出来なかったことと思います。気を張らない、ゆつくりできる会はこの会であると自負しているの、最後までゆつくりとお付き合い下さい。」と挨拶があり、来賓の方々のご紹介がありました。

その後、今野練習艦隊司令官からのご挨拶に引き続き、泉徹元練習艦隊司令官の乾杯の音頭で始まり、終始和やかな雰囲気の中、参加会員一同、近海練習航海の労を労うともに遠洋練習航海の成功と安全なる航海を祈念しました。

約1時間という短い時間ではありましたが大いに盛り上がり、大谷「かしま」艦長の乾杯の音頭でお開きとなりました。

(石井 順 幹事 記)

4 馬門山海軍墓地墓前祭

第65回横須賀馬門山海軍墓地墓前祭が、令和5年5月13日(土)午前9時30分から約1時間におたつて、大津行政センター(神奈川県横須賀市大津町3丁目34-40)において厳粛に執り行われました。

墓前祭は、横須賀水交會、隊友会横須賀支部、大津地区社会福祉協議会、大津地区連合町内会、大津観光協会の計5団体の共催であり、当会会員も記帳、受付、案内などを担当し、式典の円滑な運営に大きく貢献しました。

当日はあいにくの雨模様でありましたが、平成28年に落成し設備の整った大津行政センター2階の体育館が初めて活用され墓前祭事務局である当センタースタッフの的確な采配により、万事滞りなく進められました。

参列者は、ご遺族とその関係者、来賓として上地克明横須賀市長、県及び市の議会議員(初当選の池田徳重市議を含む)、横須賀地方総監はじめ海上自衛隊横須賀地区の各指揮官等、主催

5団体の会長・支部長と会員、一般の参列者を合わせて約150名(当会から約15名)でありました。

それぞれが、祖国のために散華された英霊を追悼するとともに、我が国及び世界の恒久平和のために祈りを捧げていました。



次第は、横須賀水交會会長による「開式の言葉」、「国歌斉唱」に引き続き、大津地区連合町内会長及び横須賀市長による「追悼の言葉」、「黙祷」、海自儀仗隊による「拝礼」(館内のため、弔

銃発射を省略)、「献花」と続き、隊友会横須賀支部長による「開式の言葉」で締め括られました。今回も、湘南学院高等学校生徒さんによる受付や献花の補佐等の協力が得られ、墓前祭には欠くことができない存在となっています。

このような活動に携わる若者たちが、御霊の遺志、参列者の思いを将来に繋いでくれるに違いありません。

最後に、事前清掃を含めた準備、儀仗隊による拝礼等を全面的に支援してくださった、海上自衛隊横須賀地区の各機関及び部隊の皆さんの絶大なご協力に対し、主催各団体から深甚なる感謝の意が表されたことを付記します。

※ 馬門山海軍墓地は、横須賀市根岸町の丘上にあります

(最寄りには京浜急行新大津駅)。

明治15年(1882年)に海軍省により、戦死又は殉職した軍人のために設けられました。戦後、一部が市民墓地として利用されています。慰霊碑として、

支那事変・大東亜戦争戦歿者忠霊塔、第四艦隊遭難殉職者之碑、軍艦河内殉難者之碑、軍艦筑波殉難者之碑等が建立されています。

(宮路 貴幸 幹事 記)



5 遠洋練習航海部隊出国行事

令和5年5月25日(木)、横須賀逸見岸壁において、令和5年度遠洋練習航海部隊(司令官 今野 泰樹 海将補 以下、54

1名)の出国行事が横須賀地方総監(乾 悦久 海将)執行のもと行われました。

多くのご家族と関係者が見送りのため集まる中、練習艦「かしま」及び「はたかぜ」の各艦から降りてきた指揮官、実習幹部、乗組員が整列した後、出国行事が開始されました。

はじめに、防衛大臣からの訓示を、鈴木 敦夫 防衛事務次官が代読され、続いて海上幕僚長(酒井 良 海将)から「一人一人が日本国の代表であるとの誇りを胸に帰国の日まで全力で頑張ってもらいたい」と壮行の辞が述べられました。

引き続き、来賓の紹介、祝電の披露が行われた後、各関係団の長から司令官、艦長、実習幹部代表及び乗員代表への花束の贈呈が行われ、最後に、今野司令官から鈴木防衛事務次官に「実習幹部161名を含む乗組員541名、只今から遠洋練習航海に向け出港します。」と力強い出国報告が行われました。

式典には、このほか、チリ、ペ

ルー、コロンビアなど寄港予定



国の駐日大使、上地 克明 横須賀市長、国会議員、県議会議員をはじめ多くの関係者が参列され、水交會からも杉本 理事長、永田 横須賀水交會会長をはじめ歴代練習艦隊司令官を含む40名を超える会員が参列、今野艦隊の壮途を祝すとともに任務の完遂と安全なる航海を祈念しました。

岸壁に整列していた指揮官、実習幹部、乗組員は、横須賀音楽隊が演奏する行進曲「軍艦」にあ

わせ、それぞれの艦に乗り組み、最初の寄港地ダッチハーバー（米国アラスカ州）に向け「はたかぜ」、「かしま」の順に出港していきました。

（一瀬 良文 事務局長 記）



6 インド太平洋派遣訓練部隊

出国行事

令和5年5月31日(水)、横須

賀逸見岸壁において、令和5年度インド太平洋派遣訓練部隊（指揮官・第1護衛隊群司令 西山 高広 海将補）の出国行事が行われました。

朝まで降っていた雨もあがり、総勢270人を超えるご家族と関係者が見守る中、護衛艦「いずも」から降りてきた司令部および乗組員が整列し、出国行事が開始されました。

まず、齋藤自衛艦隊司令官から「自由で開かれたインド太平洋を目指すとともに、力による一方的な現状変更は絶対に許さないという我が国の気概を示すため、諸君をインド太平洋方面に派遣する。先日のスーダンにおける邦人輸送の際にも現地にて活動中であつた「まきなみ」やP3C乗員は空自機が到着するまでの事態急変に備えて待機していた。

このように、世界はいつ何が起きてもおかしくない情勢にあり、常に緊張感を持って行動するとともに、4カ月の長期に及ぶ派遣期間中は、一人一人が一

丸となつて任務完遂に努めてもらいたい」との「壮行の辞」が述べられました。



その後、西山 第1護衛隊群司令から「第1水上部隊、ただいまから出発します」との力強い出国報告があり、横須賀音楽隊の奏でる「宇宙戦艦ヤマト」に送られるように、城 艦長を先頭に見送りの家族や隊員に声を掛けられながら乗艦していきました。

「いずも」の曳き出しが始まり、隊員がご家族の皆様を岸壁最前列に案内しますと、徐々に小さくなつていくご主人やご子息に千切れんばかりに手を振っておられました。

折しも季節外れの台風2号が九州南方を北上中ですので、どこかでやり過ごす必要があります。

派遣部隊のご安航と任務完遂を心から願っております。

(永田 美喜夫 会長 記)

7 海賊対処行動水上部隊

出国行事

令和5年6月3日(土) 雨天のため船越基地合同庁舎講堂において、約半年間にわたり海賊対処行動に従事する「いかづち」の出国行事が行われ、永田会長以下8名の会員が参列しました。

当日は、大雨警報発令中で横須賀線も一部運転を見合わせるという生憎の荒天でしたが、横

須賀市長をはじめとする来賓、部隊指揮官等約40名に加え、300名を超える家族が参列し、会場は熱気に包まれました。



開式後、まず齋藤 自衛艦隊司令官が、「今回、艦長が指揮を執る初めての行動になる。本行動は14年に及び、900回を超える哨戒、4000隻以上の船舶護衛を実施し、高い評価を得てきた。厳しい環境下での海賊対処及び周辺海域の情報収集という厳しい任務になるが、海上保安官との連携を図り、自

らの職務を誠実に遂行し任務を完遂してもらいたい。特に若い隊員は厳しい環境下で表には出ない仕事であるが、国家にとって重要な仕事であることを認識し、誠実に任務にあたれ。」と訓示しました。

司令官は、訓示の中で先日のスーダンからの邦人輸送に触れ、「当時、P3Cはいつでも輸送任務に対応できるよう迅速に待機態勢を整え、「まきなみ」はスーダン沖で待機し万全の態勢をとり、現場隊員の任務に対する強い意志を感じた。実際の出番はなかったが、彼らこそ本物のヒーローであり、誇りに思う。」と熱い思いを述べました。

渡邊 海上保安庁警備救難部長の挨拶の後、田中艦長が、「一丸となつて明るく任務完遂に努めます。行つて参ります。」と力強く出国報告し、来賓、家族の拍手の中、総員が乗艦のため会場を後にしました。大型の台風2号が接近中のため、波浪が収まるのを待つて出

港するという事で出港見送りは実施されませんでした。特に隊員家族の温かい思いが印象に残る出国行事でした。

(道満 誠一 幹事 記)



8 靖國神社等月例参拝

令和5年6月22日(木)、3年振りの靖國神社等月例参拝を実施しました。

当日は、梅雨の時期でした

が、参拝の時間帯は何とか天気はもちました。

今回は、幹部候補生学校9期の岩根氏 以下、海自OBは、クラス代表及び関係者を含め22名、七四期会2名、電子会1名、横須賀水交会12名、幹部候補生学校19期引率5名及び水交会本部9名の合計51名でした。



今回の横須賀水交会参加者は永田会長以下12名(クラス代表等の兼務含めず)でしたが、今後とも積極的な参加を呼びかけていきたいと思ひます。

村田権宮司様からは、「みたままつり」の準備のお話がありました。

今年の「みたままつり」は、コロナ前と同様に約3万張の提灯、神輿、各種奉納行事は予定されていますが露店はなく、その代わりキッチンカーは予定しているという事でした。

また、今年も昇殿参拝のほか、通常は立ち入ることのできない『中庭(ちゅうてい)』で参拝できる『夜間中庭参拝』が行われるとのことであり、「皆様のご参拝をお待ちしております。」とお話がありました。

その後、幹部候補生学校9期の今道氏を総代として、参拝が行われました。

参拝終了後、それぞれ徒歩で千鳥ヶ淵戦没者墓苑まで移動しました。

参加者は全体で49名でした。千鳥ヶ淵では(公財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会から、5月29日に佳子内親王殿下が拝礼式にご臨席されたという紹介がありました。

その後、墓苑の沿革などの説明がありました。

今参拝終了後、有楽町まで進出して直会を開催いたしました。

参加者は、11名で、永田会長の挨拶から始まり、一同での献杯、各自のコロナ禍での近況報告をして、楽しいひと時をすごしました。

次回は、2月に開催予定です。

月例参拝の参加及び初回参加者のお誘い、皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

(大野 慶二 幹事 記)

【トピックス】

1 横須賀水交会総会・

講演会・懇親会開催

令和5年6月1日(木)横須賀水交会の令和5年度定期総会、講演会及び懇親会が、よこすか

平安閣において、開催されました。



総会の参加人数は74名、書面による回答は376名で総会は成立し、永田会長を議長として3つの議案について松下幹事長が報告、審議が行われいずれも賛成多数で可決されました。各議案については、次のとおりです。

(内容の詳細については、横須賀水交会HP掲載中)

第1号議案・令和4年度活動報告

第2号議案…令和5年度役員の選任

第3号議案…令和5年度活動計画(案)

一般討議においては、長崎顧問から三笠公園にある「行進曲「軍艦」の碑」の建立とその後の今に至る経緯を例に、何か事業を起こすためには、政界と経済界を巻き込む必要があると述べられました。

また、長谷川 前水交會事務局長から、東京支部の設立についての紹介がありました。

以後、司会の松本 総務総括幹事から昨春秋、今年春の叙勲者、新会員及び新役員及び退任する幹事の紹介があり、それぞれの方々に対し出席者から暖かな拍手が送られました。

なお、退任する幹事を代表して下里 節子 会員に永田 会長から感謝状が贈呈されました。その後、連絡事項として、内嶋 総務担当幹事から5年度の主な行事日程等についての報告があったほか、本部のクラブ委員長でもある道脇 幹事からクラブ

水交での「ビール祭り」開催の案内がありました。

そして最後に杉本 水交会理事長からの祝辞を幹事長が代読して総会は閉会となりました。

引き続き、「海上自衛隊の現状について」と題して、横須賀地方総監 乾 悦久 海将による講演が行われました。

講演会の参加者は、現役自衛官を含む116名でした。

内容は、①情勢②予算③最近の海上自衛隊の活動であり、1時間半に及ぶ講演を時折ユーモアを交えながら、図、数値、グラフを駆使して分かりやすく説明していただきました。

特に所謂「安保3文書」に基づく防衛予算に関しては、苦労している点も含め詳しい説明がありました。

講演を通じて海上自衛隊の活動が一段と重要性を増すとともに、その活動範囲も拡大していることを認識するとともに、隊員の厳しい勤務環境について改めて認識できました。

講演終了後、会場を隣に移し

て懇親会が行われました。

出席者は137名で、来賓として、山本 朋広 衆議院議員はじめ多数の県議・市議及び防衛関係諸団体代表等のほか、海上自衛隊から齋藤 自衛艦隊司令官、乾 横須賀地方総監はじめ各級指揮官及び各先任伍長等の参加を得ました。

海上自衛官の真っ白な制服は会場をひと際明るくしてくれました。

会場にアクリル板はなく、参加者はマスクを外しての立食パーティーとなり、開会の前からウェルカムドリンクを片手にあちこちで再会を喜ぶ声が聞こえ、新たな交流の輪も広がっていました。

会は、永田会長の挨拶につきき、齋藤 自衛艦隊司令官及び上地 横須賀市長(代理…副市長)の祝辞のあと、来賓紹介、祝電披露があり、乾 横須賀地方総監の乾杯でいよいよ開宴となりました。

お酒が入るにつれ会話が弾み、ステージ上では色々な組み合わせ

せで写真撮影が行われるなど会場の賑わいが最高潮になった頃、閉会の時間となりました。

最後に、山本 横須賀地方隊先任伍長の中締め乾杯でお開きとなりました。

こうして4年振りにフルスペックで実施した年度初めの重要な行事を成功裏に終えることができました。

(石井 順 幹事 記)

2 「海軍の碑」記念行事

水交会横須賀支部は、海軍記念日の令和5年5月27日(土)1130から1200の間、ヴェルニー公園の「海軍の碑」の前において、令和5年度「海軍の碑」記念行事を挙行了しました。

本碑は、戦後、有志が近代海軍創設から海軍成長の歴史とともに発展した横須賀市のシンボルとして建立を市に要望してきたものの、横須賀市は平和都市に相応しくないと長く拒否してきました。

戦後50年経った平成7年にや
つと許可が出て、同11月17日、
全国の海軍関係者及び有志の浄
財により建立されたものです。

同記念行事は、当初は横須賀
海友会が、今日は横須賀水交會
が毎年執り行ってきたいました
が、コロナ禍とその後2年続け
ての雨天中止のため令和元年以
降4年ぶりの開催となりました。
当日は、晴天の中、今回から初
めて碑に生花を供えて慰霊の雰
囲気を盛り上げての実施となり
ましたが、コロナ禍の影響か参
加者は例年の半分以下の15名で
した。

行事は、国旗及び軍艦旗の掲
揚に始まり、海軍戦没者の英霊
に対して1分間の黙とう、永田
横須賀水交會会長の挨拶、顧問
の中尾誠三氏からの戦史講話
を拝聴した後、鎮魂の譜(同期
の桜「巡検ラップ」「海ゆかば」
の3曲)を傾聴。最後に国旗及び
軍艦旗の降下をもって行事は終
了しました。

整齊かつ厳かな雰囲気の中で、
参加者が海軍の業績を偲ぶと共

に海軍の英霊の追悼と永遠の平
和希求する機会となりました。

(池田 徳重 幹事 記)



3 第42回横須賀水交會主催

ゴルフコンペ

令和5年6月5日(月) 台風

2号の影響で開催が危ぶまれま
したが、当日は朝から快晴に恵
まれ、前回同様千葉房総半島の
南総ヒルズカントリークラブに
て42回目の横須賀水交會主催ゴ
ルフコンペを開催しました。

参加者は前回に比し若干増え
て1名の女性を含む20名の参加
を得ました。

台風一過で気温も27度まで上
がり、参加者のほとんどが半袖
でプレイされ、後半、熱中症の懸
念もありましたが、雲が適当に
日差しを閉ざす絶好のゴルフ日
和の天候に恵まれ、和気あいあ
いと親睦を深めることができました。



プレイは、東、西、中それぞれ
のコースに2組ずつで、各組
0817にスタート、スコアを
争うプレイとは別に設定された
各組ドラコン2ホール、ニアピ

ンを4ホールの争奪戦で、特に
際立ったのは曾我栄一氏がニ
アピン2個、ドラコン2個、また
熊谷博之氏がニアピン1個、
ドラコン2個と、それぞれ前回
に引き続き大活躍でした。

最終的なダブルブリア方式に
よる成績は、乳井三治氏が、グ
ロス102、ハンデキャップ 30.
0、ネット72.0で初優勝、2
位は幹事の迫幸一郎氏(82、
7・6、74.4)が、そして3
位には鈴木友久氏(93、18.
0、75.0)、ベストグロス賞
は天津雅紀氏で78という結果
でした。

優勝者コメントでは、「天候や
メンバーに恵まれ、ようやく優
勝という宿願を果たすことがで
きました。実力を遺憾なく発揮
してのハイスコアの優勝で、ゴ
ルフはスコアではない、参加さ
えすれば誰にでもゴルフの神様
は微笑む、ということをお示し
できたものと思います。幹事様
をはじめ、会員の皆さま、ありが
とう御座いました。次回も頑張

ります。」との乳井氏らしい素晴らしいコメントを頂きました。

今回は、プレイ終了後の表彰パーティー等を第39回以来約3年半ぶりに実施し、賞品も盛り沢山で、プレイと合わせて久々に和気あいあいと親睦を深めることができました。

今後とも会員の親睦を目的とし、水交会会員のみなならず、陸海空自衛隊のOBや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交会の活動に理解を深めていただければと考えております。

今回の開催は、本年11月を予定しております。

奮ってのご参加よろしくお願ひします。

(迫 幸一郎 幹事 記)

4 横須賀夏期防衛講座

当日は、令和5年8月19日

(土) 横須賀地区防衛諸団体共催(※)による横須賀夏季防衛講座が4年振りとなる納涼懇親会を含めて開催されました。

当日は、今年の夏を象徴するような猛暑日でしたが、小泉

進次郎 衆議院議員、三浦 信祐 参議院議員、亀井 たかつぐ 神

奈川県議会副議長、田中 洋次 郎 神奈川県議会議員、田中 茂

横須賀市長代理副市長、大野 忠之 横須賀市議会議員、小幡

沙央里 横須賀市議会副議長、乾 悦久 横須賀地方総監、平田

利幸 護衛艦隊司令官代理幕僚長、今井 俊夫 陸上自衛隊高等

工科学校長 兼 武山駐屯地司令、渡邊 浩 開発隊群司令、石

巻 義康 第二術科学校長等を始め、来賓及び各団体会員、総計

約170名の方々が参加されました。

第1部の「講演会」は、講師に、元陸上幕僚長の岩田 清文

氏をお迎えして、記念艦「三笠」講堂において、実施しまし

た。

岩田氏は、防衛大学校卒(第

23期)、機甲科として、戦車部隊での勤務を経て、中部方面総

監部幕僚副長、陸幕人事部長、第7師団長、統合幕僚副長、北

部方面総監、陸上幕僚長の要職を歴任され、平成28年に退官されました。

開会の辞に始まり、国歌斉唱、共催団体長の紹介、永田 美喜夫 横須賀水交会会長による講師紹介、そして講演、質疑応答と続きました。



講演は、「日本の安全保障と

課題〜台湾・日本有事に備え、戦争を抑止する〜」を演題とし、我が国の安全保障上、決定的に重要な4年であるというとい

う話から始まり、『台湾有事

は、どのような日本有事になるのか』では、多角的な切り口から中国による台湾進攻の可能性大と分析した上で、その場合に生起する邦人救出や日本に対する各種恫喝、インフラ攻撃などを経て日本の資源ルート遮断に至るまでを米軍来援と前後させながら、我が国への影響は多岐にわたったり、まさに有事になると述べられました。

『今後日本が強化すべき方向(抑止力の強化)』では、反撃能力、即応力、抗堪力、宇宙・サイバー・情報戦能力、ドローン・AI戦能力、国民の愛国心・抵抗心そして国全体の総合的な安全保障力の強化が必要であると、説明していただきました。

最後に、『最悪の事態に備えた抑止力強化で、戦わずして勝つ。そのためには「戦略三文書」の確実な実行が不可欠である』とまとめられ講演は終了しました。

第2部の「納涼懇親会」は、場所を「神奈川歯科大学学生食

堂」に移して実施されました。

懇親会には、小泉衆議院議員、三浦参議院議員を始め、田中神奈川県議会議員、田中横須賀市副市長、大野市議会議長及び自衛隊の部隊指揮官・先任伍長など、多数の来賓が出席され、参加者は総勢約200名にのびりました。

主催者を代表し、平松 廣司横須賀防衛協会会長の挨拶に引き続き、小泉衆議院議員及び三浦参議院議員から御挨拶をいただいた後、乾横須賀地方総監による乾杯で4年振りの宴が始まりました。

会場のあちらこちらでは防衛談義に花が咲いていました。

また、4年振りということでも、旧交を温める機会ともなりました。

懇親会は大いに盛り上がる中、予定していた時間は瞬く間に過ぎ、講師をお見送りした後、閉会となりました。

暑い中、講演会と懇親会が成功裏に終了することができたのは、横須賀水交会を始め企画運

営に携わった役員のおかげであると多くの参会者から感謝をされておりました。

(石井順 幹事 記)

*横須賀防衛協会、横須賀水交会(幹事)、隊友会横須賀支部、三笠保存会、隊友会武山三浦支部、自衛隊家族会神奈川三浦半島地区会、三浦半島自衛官募集相談員会、桜友会(順不同)

5 横須賀水交会から激励賞を贈呈

横須賀水交会(会長・永田美喜夫)では、8月第24日(木)横須賀教育隊第19期一般海曹候補生課程、第381期練習員課程及び第69期練習員(女性)課程の修業式において、成績優秀者4名(男性2名、女性2名)に対し、表彰状及び記念品を贈呈しました。

第19期一般海曹候補生課程492名から男女各1名及び第

381期練習員課程121名及び第69期練習員(女性)課程65名から各1名が選考されました。



修業式は、久しぶりに家族、来賓とも制限なく参列しましたが、残念ながら練習員課程修了者の一部がインフルエンザのため参列できませんでした。

式典は、修業生約700名、ご家族等約1,100名の参加となったことから海上自衛隊保有の体育館では参加者を収容で

きないため、陸上自衛隊武山駐屯地体育館を借用しての式典となりました。

大賀 康弘 横須賀教育隊司令からは、修業生に、まず帽子を脱ぎ汗を拭うよう指示したのちに、「海上自衛官は海を守る」とが任務であり、海を知り海を誇りに思い、海の大切さを伝えられるよう努め、事に臨んで職務を完遂できるよう、同僚、上司、家族から信頼がえられるよう精進せよ。」との式辞がありました。

乾 悦久 横須賀地方総監からは、「修業生は、若さと活力の源であり、部隊は着任を待っているのので自信をもって勤務するよう」訓示するとともに、参列の家族に修業生の凛々しい姿を引き続き見守ってもらいたいとお話がありました。

また、来賓祝辞では田中 茂横須賀副市長が上地市長の式辞を代読され、「海上自衛隊の存在が増す中、修業生が当地で学んだ知識と勇気をもって活躍することを祈るとともに、横須

賀を第2の故郷として、寄港の際には楽しんでもらいたい。」とのお話がありました。

なお、連日猛暑が続いていることから、体育館には大型冷房機が設置されていました。

それでも体育館内は蒸し風呂状態でしたが、式典は整齊と実施され見事でした。

激励賞は、以下の方々が授賞されました。

第19期一般海曹候補生課程

2等海士 来栖 眞乃祐

2等海士 笠原 瑠南

第378期練習員課程

2等海士 大上 潤

第67期練習員(女性)課程

2等海士 宮崎 菜海

終業された皆様が、部隊において更なる研鑽を積まれ、海の防人として大きく成長されることを横須賀水交会一同祈念しております。

(吉岡 俊一 幹事 記)

6 横須賀水交会防衛講座

令和5年9月30日(土)、ヴェルク横須賀第3研修室(横須賀市日の出町)において、「第1回横須賀水交会防衛講座」を開催しました。

前回、「第0回横須賀水交会防衛講座」を試行したところ、多くの聴講者から正規開催を望むとの意見をいただきましたので、約半年ぶりに横須賀水交会有志会員及びその同行者を対象として実施しました。

当日は、会場の制約のある中、36名が参加しました。

この日の講師は、永田美喜夫横須賀水交会有会長(元海上自衛隊潜水艦隊司令官)で、演題は『潜水艦が少しでも身近に感じられるようになる7つのお話』でした。

潜水艦部隊で長く勤務した講師が、「どんな人が潜水艦乗員になれるのでしょうか?」、「海の中でどんな暮らしをしているのでしょうか?」、「お給料って?」など、7つの質問を投げかけながら「潜水艦乗りの生

活」について、ユーモアを交えながら分かりやすく解説されました。



終了後は、引き続き同じ会場で、ピザを摘みながらノンアルコールでの懇談会を開催し、和やかな雰囲気の中、会話が弾みました。

今後とも、創意工夫を重ね、横須賀水交会有志会員の方々に

とって魅力的なイベントを企画していきたいと考えております。

(山岡 鉄司 幹事 記)

【お知らせ】

寄付のお知らせ

寄付芳名 奥村 直広 様
5,000円

横須賀水交会对するご芳志まことにありがとうございます。

(一瀬良文事務局長 記)

水交会「定期講演会」

動画配信のお知らせ

水交会(東京)では講師を招き毎月定期講演会を開催しております。過去の定期講演会の一部を動画配信しています。

詳しくは水交会ホームページの「定期講演会実績」をご覧ください。

16	第1版	第54号	横須賀水交会	令和5年11月13日(月)
(石井 順 幹事 記) 横須賀水交会 全会員用 メーリングストについて 「メールによる 会員の皆様への行事等のご案内」を行っております。つきましては、メーリングストへの登録を希望される方は次の要領で「登録をお願いいたします。」 ① 登録用アドレス memberlist_regist@y-suikoukai.sakura.ne.jp ② 登録内容 (例) (1) 氏名・海尾 護 (2) 会員番号・01741⑧3 (3) メールアドレス unionamoru@gmail.com ※登録アドレスは、お一人につき1アドレスとさせていただきます。何かご不明な点がございましたら、登録アドレスへ一報ください。 (檜森 晃治 幹事 記)				
水交会からのSNS発信 水交会では、その活動等に関する周知を図るため、ホームページに加えて、SNSを使用しでの情報発信をしております。当会で最近実施したイベント等を逐次アップしていきますので是非ご覧ください。 Facebook 又は Instagramにて「水交会」、または、「公益財団法人 水交会」で検索して頂くと閲覧できます。 (石井 順 幹事 記) 叙勲受章者(春の叙勲) 次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称略) 1 令和5年春の叙勲 瑞宝中綬章・武田 壽一 瑞宝小綬章・石坂 薫 2 危険業務従事者叙勲 瑞宝単光章・檜森 晃治 (一瀬 良文 事務局長 記)				
計 報 4月本紙発行以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略) 西山 中庸 (4月17日) 永島 三佐男 (7月7日) 吉野 信二 (7月20日) 藤井 明 (7月22日) 山下 繁雄 (7月31日) (一瀬 良文 事務局長 記) 新(編)入会員 令和5年3月〜9月 次の方々が横須賀水交会に新たに入会(編入)されました。(敬称略) 編入 齋藤隆 (70幹候) 湯浅秀樹 (86幹候) 山田治彦 (有志) 川村大介 (81幹候) 入会 朝田修 (生徒27) 鈴木章二 (95幹候) 櫻井日登美 (有志) 平間博彦 (有志) 松崎吉洋 (有志) 郷原健司 (横教243) 星野正彦 (89幹候) 田島聖士 (医歯幹候25) 高梨洋之 (89幹候) 川鍋由美 (有志) 加来至誠 (有志) 古川涼子 (有志) 桐谷信太郎 (有志) 松崎明奈 (13幹候) 中重和美 (有志) 吉田佳子 (有志) 柏岡史人 (有志) 河上康博 (88幹候) 遠藤昭彦 (89幹候) 伊藤鮎美 (有志) 福島尚子 (有志) 岸本昌之 (89幹候) 齋藤公彦 (呉教1補士) 橋永和代 (有志) 大森浩昭 (91幹候) 渡邊泰久 (有志) 吉田英一 (有志) 近江良 (91幹候) 赤羽力哉 (60幹候) 田中孝 (有志) 宮本隆史 (有志) 潮井暁子 (有志) (桂 眞彦 幹事 記) 【編集後記】 新型コロナウイルスが5類に移行され各行事が再開され始めています。皆さまにおかれましても、これら様々な機会をとらえて参加していただきまして、横須賀水交会ホームページへの投稿をお願いいたします。 (山岡 鉄司 幹事 記)				